



▲都市との交流について報告が行われました



▲農村集落点検について語る徳野教授



▲表彰を受ける齋藤ハルイさん

出展された125点のうち、バッグを製作した齋藤ハルイさん（深谷）が最優秀賞に輝きました。続いて、までいライフ推進事業報告として、福島大学の松野光伸氏教授をコーディネーターに、8月に実施した飯樋4区の「農家に泊まろう!!」を高橋ちよ子さん（飯樋町）、11月に行われたまでいな休日のうち、佐須コースを菅野宗夫さん（佐須）、小宮コースを渡邊守男さん（小宮）が交流内容や苦労した点、今後の課題などについてそれぞれ報告しました。

までいのつどい



までいマイグッズコンクール表彰

2/28

都市との交流事業報告会



までいライフ講演会



までいライフ顕彰事業

村では、「第5次総合振興計画」の基本理念である「までいライフ」の推進を図るため、次世代に残したい、皆に伝えたい、までいな実践を顕彰しています。

今回、までいライフの取り組みを発表する「までいのつどい」を公民館で開催し、約100人が参加しました。

つどいでは、までいライフ顕彰事業表彰をはじめ、までいマイグッズコンクール表彰や平成21年度に行なわれた都市との交流事業の住民による報告、熊本大学文学部徳野貞雄教授（地域社会学）による講演が行われました。

今回、までいライフを実践している6人を認定・表彰し、そのほか1団体を奨励しました。

また、利用しなくなった思い出の布を再利用した「までいマイグッズ」コンクール表彰を行い、

その後、熊本大学教授 徳野貞雄氏による「農村（ムラ）の幸せ 都会（マチ）の幸せ」と題した講演では、徳野教授は、「ごはん一杯の値段を把握しているか」などと参加者に問いかけながら、鋭い問題意識で自身の研究に基づいた農村の実態などについて全力で語られ、県内外から訪れた参加者らは熱心に耳を傾けていました。

までいマイグッズコンクール受賞者（敬称略）

最優秀賞

優秀賞

佳作

- | | |
|------|------------|
| バッグ | 齋藤ハルイ（深谷） |
| バッグ | 佐藤公子（八和木） |
| バッグ | 菅野松子（草野） |
| エプロン | 佐藤由賀里（大倉） |
| バッグ | 佐藤峰子（上飯樋） |
| バッグ | 高橋キノ（関沢） |
| バッグ | 佐藤安子（小宮） |
| バッグ | 村山 孝（深谷） |
| バッグ | 佐藤ヨシノ（八木沢） |
| バッグ | 荻津谷子（草野） |



飯館中学校生徒会

生徒会ではCO2の削減を目指して、エコ活動に取り組んでいます。手作り節電・節水ポスターづくり、節電・節水コンクール、ペットボトルのキャップを集め「ポリオ」という病気のワクチンに変えて寄付しようという活動をしています。



佐藤 美穂さん（大久保外内）

お母さんがお仕事なので、夕飯は兄妹3人で作ります。一番得意な料理はゴーヤチャンプルーです。一番得意なわけは、お母さんに初めて習った料理だからです。やり始めた理由は、いつもお母さんが忙しいから、お母さんがうれしいなと思うように。お母さんには感謝しています。



佐藤ちさきさん（深谷）

体の不自由なおじいちゃんのお世話や入院しているひいおばあちゃんのために、毎日病院に通っているおばあちゃんを見てやさしいなと思いました。お母さんも仕事が大変なので、自分達もご飯の支度、風呂、洗濯などをやっています。ばあちゃんとお母さんが少しでも楽になるように。



西川茜衣梨さん（草野）

毎日、ひいじいちゃん、雨が降っても雪が降っても、暑い日も寒い日も、元気な時も風邪をひいていても、幼稚園の時からずーっと、笑顔で、バス停まで迎えに来てくれることが嬉しいです。



佐藤ちひろさん（深谷）

我が家では、湯たんぽの湯での皿洗いや風呂の残り湯での洗濯、米のとぎ汁を植物にやる、多い食べ物は近所の方におすそわけするなどのほか、分別リサイクルにも取り組んでいます。



管野 則幸さん（大倉）

大倉の芸能保存会への参加しています。忙しい仕事後、参加している大倉の人々や伝統芸能を無くさないことが「までい」の精神といえると思います。僕は大会の一員として誇りに思います。



木幡 富明さん（草野）

入院をきっかけに、家族の支えあう力を、までいを宝にして、生きる喜びを家族で話し合うことにしました。金曜日の夕食後に団らんしています。



までいライフ認定者